

ピュアな喘息FAQ 6

『喘息でしょうか?』—検査結果からの考察—

これを読んでおけば、喘息に関してどんな検査をしてもらえばよいのか分かります。参考になさってください。

喘息と言われたのですが、納得がいきません。どんな検査結果から喘息と診断されるのでしょうか。あまり検査の料金を払いたくないので、最低これだけはとか、十分に調べる場合はどんなものがあるか、という2本立てで教えてください。

診断は喘息かどうかハッキリさせてほしい、血は採られると痛いしお金もかかるのでしたくない、他の検査も最小限にしてほしい、しかしすぐに治る治療をお金がかからないように、日数もかからないようにやってほしいという人がいます。何もかもご希望のようにというわけにはいきません。検査の情報に関してはご希望に添って、2本立てで紹介します。

I) 小児喘息、成人喘息とも最低限必要な検査

- ・ 胸部写真 正面1枚
- ・ 血液の検査で
 - ① 末梢血検査（白血球を含む）
 - ② 血液像（好酸球数か%）
（白血球分画とも言う）
 - ③ 総 IgE（アイジー・イー）
 - ④ RAST（ラスト・特異的 IgE 抗体）
ダニ、スギ花粉、カモガヤ、動物の上皮、真菌類、
食物などから選ぶ
- ・ 呼吸機能（フローボリュームカーブ）
検査可能な小児、成人喘息の人の場合のみ必要
一秒率が特に必要

正常か異常か、喘息かどうかは、主治医の判断となります。

II) 共通して、これだけやればほぼ十分という検査

最低限のものに追加します。全てやらねばならないというものではありません。全てやれば莫大な費用と手間がかかります。

血液検査：赤沈、CRP、肝機能、腎機能、電解質、血糖、脂質
テオフィリン系薬剤使用の人は血中テオフィリン濃度
ステロイド剤内服使用の人は血中コルチゾール

検尿、動脈血ガス分析、経皮的酸素飽和度、
胸部X線写真の側面（通常は右→左）、心電図、
精密呼吸機能検査（残気量や肺拡散能含む）
気道過敏性テスト、皮内テスト、吸入誘発テスト、喀痰細菌培養、
細胞診、ピークフローメーターでの測定

必要に応じて

副鼻腔の写真やCT、胸部CT、肺シンチ、気管支ファイバー

III) 経過観察のための検査・処置

喘息予防・管理ガイドライン2003（JGL1998改訂第2版）には次の10項目があげられています。

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 1. ピークフロー（PEF）の測定と喘息日記による自覚症状の記録 | 5. テオフィリン血中濃度測定 |
| 2. フローボリューム曲線の測定 | 6. 血漿コルチゾール値測定 |
| 3. 気道過敏性の測定 | 7. 胸部X線写真，心電図 |
| 4. 動脈血液ガス分析・パルスオキシメータの測定 | 8. 喀痰および末梢血中好酸球・ECP測定 |
| | 9. 一般生化学検査・血算・検尿 |
| | 10. 特異的IgE抗体，総IgE測定 |

IV) 検査にあたっての注意

ここで紹介したのは、清水の考えです。全ての先生が同じ考えではありません。患者さんによっては適宜の追加や削除が必要でありましょう。

一応の目安として紹介したものですので、先生とよく話し合い決めて下さい。

病院によって正常値が違いますので、正常値はそこで聞いて下さい。年に1回くらいは検査はお受けになるとよいでしょう。